

日本語における疑問對象とその形態統語範疇

黒木邦彦

1 はじめに

附加部 (adjunct)¹ないしその構成要素を對象とする疑問形式は、項 (argument) を指す補部 (complement) のそれとは、形態統語的に異なる振る舞ひを見せるやうである。

- (1) a. Who did what?
b. Who left for what reason?
c. *Who left why?
d. Who left, (and) why?
e. Who did what, where, when, why, and how?
f. Why who did what, where, when, and how? ((1e) より idiomatic らしい)

- (2) a. 和伎毛故我 伊可尔 於毛倍可 奴婆多未能 比登欲毛
[wagimoko=ga ika=ni omope]=ka nubatama=no pitojo=mo
於知受 伊米尔之 美由流
otizu imeni=si mijuru.
‘愛しい妻がどう思ってたか、一夜も缺けず、夢に見ること’
- b. 天 飛也 鴈之 翅乃 覆羽之 何處 漏香
ama tobu=ja [kari=no tubasa=no opopiba=no iduku morite]=ka
霜之 零異牟
simo=no purikemu.
‘空を飛んでゐるのか、雁の翼の覆ひ羽の何處が漏ってたか、霜の降ったらうこと’
(Yanagida 1995; Whitman 2001; オルドリッチ 2015 も参照)

發表者は、本研究計畫において、doo, naze, naN=de, doo#jaQte, doo#site といった疑問附加部の地理的分布を記述すると共に、その形態統語論にも取り組んでゐる。そこで、本發表では、疑問附加部を中心として、日本語において疑問對象とその形態統語範疇がどのやうに相關してゐるかを明らかにする。

¹ 統語意味的要素たる adjunct は、日本語では一般に「附加詞」と呼ばれる。しかし、「一詞」で終りながら、動詞や名詞のやうな語類 (word class) ではない。同じく統語意味的要素たる complement も、「補語」と呼ばれてゐながら、必ずしも語 (word) ではない。したがって、これらのやうな統語意味的要素は、全て「一部」と稱する。

2 形態論

2.1 疑問附加部の構造

1 語から成る疑問附加部は稀である (cf. 黒木 2014)。

(3) 副詞および擴張副詞

- a. doo //do_i-V_i// ‘どう (疑問稱-副詞化)’
 b. nazjo(=ni) ‘どう’ (庄内地方、福島県、栃木県北部の方言)
 c. { dog(j)a(N) / doge(N) / doNge(ni) / donai(ni) / done(N) } < dogai(=ni) ‘どう=與格’
 (現代諸方言)
 d. nado ‘なぜ’ < [擴張 nani=to] ‘何=共格’ (古代語)
 e. naze ‘なぜ’ < [節 nani#se-^am-^ru=ni] ‘何#する-非現実-準體’ (cf. 大坪 1983)
 f. nadepu ‘なぜ’ < [節 nani=to#ip-^ru] ‘何=共格#言ふ-準體’ (古代語)
 g. naike ‘なぜ’ < [節 naN#s_e-ⁱke] ‘何#する-聯用.目的’ (甌島方言)
 h. nasi ‘なぜ’ < nasii < [節 nani#s_e-ⁱni] ‘何#する-聯用.目的’
 nazika < [擴張 nani=si=ka] ‘何=強意=疑問’ (現代諸方言)

(4) 擴張名詞 (extended noun)

- a. ika=ni ‘どう; なぜ (如何=與格)’
 b. ika=de ‘どう; なぜ (如何=具格)’ (古代語)
 c. nani=de ‘何で (何=具格)’
 d. naN=de ‘何で; なぜ (何=具格)’
 e. naN=to ‘どう (何=共格)’ (秋田方言)
 f. doota#huu=ni ‘どんな風に (どうした#風=與格)’ (茨城県方言)
 g. doo#sita#kocii //[[do_i-V_i#s_e-ⁱta]#koto=ⁿi]// ‘なぜ (疑問稱-副詞化 #する-聯體.過去 #事=與格)’
 (大分県南海部方言)

(5) 副詞節

- a. doo#jaQ-te ‘どうやって (どう#やる-聯用.聯結)’
 b. { dogai(=ni) / nazjo(=ni) / naN=to } #si-te ‘どうやって (どう#する-聯用.聯結)’
 (現代諸方言)
 c. doo#si-te ‘なぜ (どう#する-聯用.聯結)’
 d. nani#si-ni ‘なぜ (何#する-聯用.目的)’ (古代語)
 e. ikeN#si-te ‘どうやって; なぜ (どう#する-聯用.聯結)’ (北薩方言)

2.2 疑問附加部に對する回答

副詞に乏しい日本語では、附加部を問はれた際、副詞 1 語で回答するのが難しい。

(6) 附加部

- a. プロテストに落ちて どう 思った?
 ——悔しい=から 來年=も 受けよう=って。

- b. 諸君らが 愛して くれた ガルマ ザビ=は 死んだ。 何故=だ?
——坊や=だ=から=さ。

(7) 名詞および擴張名詞

- h. これは 何? — 日本酒。
i. 何が 影響してるの? — 日本酒{ Ø / が }。
j. 何を 買へば いいの? — 日本酒{ Ø / を }。
k. 最終的に 何に なるの? — 日本酒{ Ø / に }。
l. 何で 出來てるの? — 日本酒{ Ø / で }。
m. 何から 抽出したの? — 日本酒{ ?Ø / から }。
n. 何より 美味しいって? — 日本酒{ ?Ø / より }。

3 統語意味論

3.1 広義の理由表現形式

- (8) a. [電気=が 附いて みる=から]^{根據} 鈴木さん=は まだ 研究室に 居る。
b. なぜ 鈴木さん=は まだ 研究室に 居る{ *Ø / =と 言ふの }?
(9) a. [皆さん=の 迷惑=だ=から]^{根據} 大人しく 下さい。
b. なぜ 大人しく 下さい{ *Ø / =と 言ふ=の }?

理由表現形式は、發話の根據、因果關係、名目を表すものに分類できる (cf. 加藤 2004、杉浦 2013)。

3.2 理由表現形式の順序

杉浦 (2013) が明らかにしたとほり、「(外) 發話の根據 > 因果關係 > 名目 (内)」といふ順に並ぶ。

- (10) a. [私=の せい=に される=から]^{根據} [体調不良=で]^{因果/名目} 欠席 しないで。
b. *[体調不良=で]^{因果/名目} [私=の せい=に される=から]^{根據} 欠席 しないで。
(杉浦 2013)
(11) a. [私=の せい=に される=んで]^{根據} [風邪を 引いて]^{因果} 欠席 しないで。
b. *[風邪を 引いて]^{因果} [私=の せい=に される=んで]^{根據} 欠席 しないで。
(12) a. [氣乗り しなかつた=から]^{因果} [法事=で]^{名目} 欠席 した。
b. *[法事=で]^{名目} [氣乗り しなかつた=から]^{因果} 欠席 した。 (杉浦 2013)

(13) 杉浦 (2013: 27) (用語および形式の表記は私に改めた)

發話の根據 因果關係 名目

非疑問: =kara, =node =kara, =node, -te, =de
 =no#tame(=ni), =de

疑問: N/A naze, naN=de, doo#si-te, doNna#rijuu=de
 doNna#rijuu=de, doo#juu#rijuu=de
 doo#ju-u#rijuu=de

なお、體系 (13) は現代諸方言においても同様である (古代語ではどうか)。

3.3 副詞節の位置

[... N=de ... [副詞節 ...] ... Pred] という複文自體は適格か。

- (14) a. 昨年=の 大晦日=は 徹夜=で [初日の出=が 見たくて] 過ごした。
 b. 日本酒=を 福井県=で [近々 職場の 忘年会=が 有る=んで] 買った。
 c. 先生=は 車=で [電車だと 遅くなる=から] 来る=みたい。
- (15) a. 學會に 下駄=で [A 類節 カランコロン=と 鳴らしながら] やって 来た。
 b. 學會に 和服=で [B1 類節 注目=を 浴びる ため] やって 来た。
 c. 學會に セイラア服=で [B1 類節 この ジャンケン=に 負けたら] 行け=よ。
 d. 學會に 和服=で [B2 類節 そんなに 目立ちたい=なら] 行け=よ。
 e. 學會に 下駄=で [C1 類節 和服=を 着て] やって 来た。

4 をはりに

- (16) a. 疑問附加部の形態上の多様性および一般性
 b. 理由疑問附加部の位置

参考文献

- エディス オルドリッジ (2015) 「上代日本語における疑問詞の位置について」、『國語研プロジェクト レビュー』、Vol. 5-3、pp. 122-34、国立國語研究所
- 大鹿 薫久 (1991) 「萬葉集における不定語と不定の疑問」、『國語學』165、pp. 53-66、國語學會
- 大坪 併治 (1983) 「漢文訓読文におけるナゼニの成立をめぐる」、『國語學』132、pp. 1-10、國語學會
- 加藤 薫 (1994) 「原因・理由の表現について——「ので」と「から」の異同を中心として——」、『文化女子大學紀要 人文・社会科学研究』2、pp. 125-39、文化學園大學
- 黒木 邦彦 (2014) 「日本語の疑問附加部の構造と意味に見られる一般性」、『日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究 研究報告書』1、pp. 69-77、国立國語研究所
- Whitman, John. (2001). Kayne 1994: p. 143, fn. 3. In G. Alexandrova & O. Artunova (Ed.). *The Minimalist Parameter*. pp. 77-100. Amsterdam: John Benjamins.
- Yanagida, Yuko. (1995). Focus projection and *wh*-head movement. Unpublished doctoral dissertation. Cornell University.

くろき くにひこ (神戸松蔭女子學院大學; 螢池言語研究所)

E-mail: nihon5_no_ken9@yahoo.co.jp

HP: <http://hotarugaikegengokenkyuuzyo.web.fc2.com/>